

エリザベト演奏グレード検定試験課題
鍵盤楽器
ピアノ・副科ピアノ
【最新版】

【留意事項】

1. すべて暗譜のこと。
2. 指定のある課題以外は繰り返しなしで弾くこと。
3. 任意の曲は、クラシック作品あるいはそれに準ずるものとします。
4. グレード6以上の受験には、1つ下のグレードの取得が必要です。
5. 申込方法は、エリザベト音楽大学発行の『受験案内』を参照ください。

ピアノ

グレード1	2
グレード2	2
グレード3	3
グレード4	4
グレード5	5
グレード6	5
グレード7	6
グレード8	6
グレード9	7
グレード10	7

副科ピアノ	8
-------	---

【ピアノ】

グレード1

技術課題

以下の(1)及び(2)

- (1) 音階：ハ長調とイ短調。(短調は和声的短音階と旋律的短音階を続けて弾くこと。)
以下の奏法にしたがって弾くこと。テンポは 四分音符=60以上とする。

ハ長調



イ短調 (和声的短音階)

(旋律的短音階)



- (2) F. バイエール F. Beyer: 《ピアノ教則本 Vorschule im Klavierspiel》第51番以降より1曲又は同程度の練習曲1曲。

楽曲

以下の(a)~(g)の中から1つを選択。

- (a) W.A. モーツァルト W.A. Mozart: 《メヌエットとトリオ》KV1、《メヌエット》KV2、《アレグロ》KV3 の中から1曲。
(b) D. ジェフロワ D. Geoffroy: 《カイエ・ドウ・ルモワヌ1》より1曲。
(c) C. グルリット C. Gurlitt: 《こども音楽会 Der erste Vortrag》op. 210より1曲。
(d) W. ギロック W. Gillock: 《はじめてのギロック Accent on Solos》より1曲。
(e) J. S. バスティン J. S. Bastien: 《バスティン先生のお気に入り Bastien Favorites》レベル1、レベル2の中から1曲。
(f) 中村佐和子: 《かぶとむしがきょうだいで》より1曲。
(g) 林光: 《ピアノの本》より1曲。

グレード2

技術課題

以下の(1)及び(2)

- (1) 音階：調号がシャープ、フラット1つまでの調を範囲とし、平行調の関係にある長調・短調(和声的短音階・旋律的短音階両方とする。)1組を試験時に指定。
以下の奏法にしたがって弾くこと。テンポは四分音符=100以上とする。

ハ長調

♩=100以上



イ短調 (和声的短音階)

♩=100以上



(旋律的短音階)



- (2) F. ルクーペ F. Le Couppey : 《ピアノの練習 ABC L'ABC》 op. 17より1曲又は同程度の練習曲1曲。

楽曲

以下の(1)及び(2)

- (1) J. S. バッハ J. S. Bach : 《アンナマグダレーナのためのクラヴィーア小曲集 Die Klavierbüchlein für Anna Magdalena Bach》より1曲。
- (2) 以下の(a)～(g)の中から1つを選択。
 - (a) W. A. モーツァルト W. A. Mozart : 《ウィーン・ソナチネ第1番 Viennese Sonatina no.1》より1つの楽章。
 - (b) J. ブルクミュラー J. Burgmüller : 《25の練習曲 25 Easy Studies》より1曲。
 - (c) B. バルトーク B. Bartók : 《子供のために For Children》第1巻より1曲。
 - (d) D. D. ショスタコーヴィチ D. D. Shostakovich : 《人形の舞曲 Dances of the Dolls》より1曲。
 - (e) W. ギロック W. Gillock : 《こどものためのアルバム Album for Children》より1曲。
 - (f) 湯山昭 : 《ピアノ曲集 こどもの国》より1曲。
 - (g) 平吉毅洲 : 《南の風》より1曲。

グレード3

技術課題

以下の(1)及び(2)

- (1) 音階 : 調号がシャープ、フラット2つまでの調を範囲とし、平行調の関係にある長調・短調 (短調は和声的短音階と旋律的短音階両方弾くこと) 1組を試験時に指定。奏法は《ハノン》第39番に

準ずる（4オクターブ）。長調は繰り返しなしでカデンツを付けること。短調は和声的短音階に続きカデンツなしですぐに旋律的短音階を弾いた後にカデンツを付けること。テンポは四分音符＝100以上とする。

- (2) 以下の(a)～(b)の中から1つを選択。
- (a) F. ルクーペ F. Le Couppey : 《ラジリテ L'Agilité》 op. 20より1曲。
 - (b) H. ルモアヌ H. Lemoine : 《こどものための50の練習曲 Études enfantines》 op. 37より1曲。

楽曲

以下の(1)及び(2)

- (1) 以下の(a)～(b)の中から1つを選択。
- (a) J. S. バッハ J. S. Bach : 《フランス組曲 Französische Suiten》 BWV 812-817より1つの舞曲。
 - (b) J. S. バッハ J. S. Bach : 《小プレリュード、小フーガ Kleine Präludien und Fughetten》より1曲。
- (2) 以下の(a)～(g)の中から1つを選択。
- (a) 《ソナチネアルバム》第I巻よりソナチネの1つの楽章（緩徐楽章を除く）。
 - (b) R. シューマン R. Schumann : 《こどものためのアルバム Album für die Jugend》 op. 68より1曲。
 - (c) P. I. チャイコフスキー P. I. Tchaikovsky : 《こどものためのアルバム Album for the Young》 op. 39より1曲。
 - (d) E. H. グリーグ E. H. Grieg : 《抒情小曲集 Lyric Pieces》より1曲。
 - (e) A. I. ハチャトゥリアン A. I. Khachaturian : 《少年時代の画集 Pictures of Childhood》より1曲。
 - (f) W. ギロック W. Gillock : 《抒情小曲集 Lyric Preludes in Romantic Style》より1曲。
 - (g) 平吉毅州 : 《虹のリズム》より1曲。

グレード4

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) 音階：調号がシャープ、フラット3つまでの調を範囲とし、平行調の関係にある長調・短調1組を試験時に指定（4オクターブ）。奏法は《ハノン》第39番に準ずる。長調は繰り返しなしでカデンツを付けること。短調は和声的短音階に続きカデンツなしですぐに旋律的短音階を弾いた後にカデンツを付けること。テンポは四分音符＝100以上とする。
- (2) 以下の(a)～(b)の中から1つを選択。
- (a) C. ツェルニー C. Czerny : 《30の練習曲 Études de mécanisme》 op. 849より1曲。
 - (b) J. ブルクミュラー J. Burgmüller : 《18の練習曲 18 Etüden》 op. 109より1曲。

楽曲

以下の(1)及び(2)。

- (1) J. S. バッハ J. S. Bach : 《インヴェンション Inventionen》 BWV 772-786より1曲。
- (2) 以下の(a)～(g)の中から1つを選択。
- (a) 《ソナチネアルバム》第II巻より1つの楽章（緩徐楽章及び『ソナチネアルバム2』(全音楽譜出版社)より第10番 L. v. Beethoven : 《Sonatine no.5 G-Dur》、第11番 L. v. Beethoven : 《Sonatine no.6 F-Dur》、第12番 J. Dussek : 《Sonatine no.4 A-Dur》 op.20を除く)。
 - (b) F. シューベルト F. Schubert : 《楽興の時 Moments musicaux》 op. 94より1曲。
 - (c) F. ショパン F. Chopin : 《ワルツ集》より1曲。
 - (d) J. イベール J. Ibert : 《物語 Histoires》より1曲。
 - (e) D. B. カバレフスキー D. B. Kabalevsky : 《ソナチネ》 op. 13-1より第1楽章又は第3楽章。
 - (f) 湯山昭 : 《日曜日のソナチネ》より1曲全楽章。
 - (g) 田中カレン : 《星のどうぶつたち》より1曲。

グレード5

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) 全調の音階の中から、平行調の関係にある長調・短調1組を試験時に指定。奏法は《ハノン》第39番に準ずる。長調は繰り返しなしでカデンツを付けること。短調は和声的短音階に続きカデンツなしですぐに旋律的短音階を弾いた後にカデンツを付けること。テンポは、四分音符 = 120以上。
- (2) 以下の(a)～(b)の中から1つを選択。
 - (a) C. ツェルニー C. Czerny : 《40の練習曲 Schule der Geläufigkeit》 op. 299より1曲。
 - (b) M. モシユコフスキー M. Moszkowsky : 《20の小練習曲 20 Petites Études》 op. 91より1曲。

楽曲

以下の(1)及び(2)。

- (1) J. S. バッハ J. S. Bach : 《シンフォニア Sinfonien》 BWV 787-801 より1曲。
- (2) 以下の(a)～(g)の中から1つを選択。
 - (a) 《ソナタアルバム》第I巻、第II巻より1つの楽章（緩徐楽章を除く）。
 - (b) D. スカルラッティ D. Scarlatti : 《ソナタ》より1曲。
 - (c) F. シューベルト F. Schubert : 《即興曲 Impromptus》 op. 90、op. 142より1曲。
 - (d) R. シューマン R. Schumann : 《森の情景 Waldszenen》 op. 82より1曲。
 - (e) C. ドビュッシー C. Debussy : 《2つのアラベスク Deux Arabesques》より1曲。
 - (f) H. カスキ : 《ピアノ小品集 Klavierstücke》より1曲。
 - (g) 中田喜直 : 《ピアノのための組曲《時間》《光と影》より1曲。

グレード6

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) 全調の音階とアルペッジオ（テンポは、四分音符=120）。平行調の関係にある長調・短調1組を試験時に指定。奏法は《ハノン》第39番及び第41番に準ずる。長調は繰り返しなしでカデンツを付けること。短調は和声的短音階に続きカデンツなしですぐに旋律的短音階を弾いた後にカデンツを付けること。アルペッジオは長調・短調とも繰り返しをつけ、続けて弾くこと。
- (2) 以下の(a)～(c)の中から1つを選択。
 - (a) C. Czerny : 《Kunst der Fingerfertigkeit (50の練習曲)》 op. 740より1曲。
 - (b) M. Clementi : 《Gradus ad Parnassum》より1曲。
 - (c) M. Moszkowski : 《15 Etudes de virtuosité (15の練習曲)》 op. 72より1曲。

楽曲

以下の(1)及び(2)。

- (1) J. S. Bach : 《Das Wohltemperierte Klavier (平均律)》第1巻 BWV 846-869、第2巻 BWV 870-893 より任意のフーガ1曲。
- (2) 5分程度の任意の曲（複数でもよい）。

例

- (a) W. A. Mozart : 《ピアノ・ソナタ》 KV 332、533、570 より
- (b) L. v. Beethoven : 《ピアノ・ソナタ》 op. 2-1、10-1、10-2、14-2 より
- (c) F. Chopin : 《Nocturne》より
- (d) R. Schumann : 《Phantasiestücke (幻想小曲集)》 op. 12より
- (e) J. Brahms : 《Zwei Rhapsodien》 op. 79-1、79-2より
- (f) C. Debussy : 《Suite bergamasque》より
- (g) D. Shostakovich : 《24 Préludes》 op. 34より
- (h) 尾高尚忠 : 《ソナチネ》より

グレード7

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) 全調の音階とアルペッジョ（平行調の関係にある長調・短調1組を試験時に指定。奏法は《ハノン》第39番及び第41番に準ずる。長調は繰り返しなしでカデンツを付けること。短調は和声的短音階に続きカデンツなしですぐに旋律的短音階を弾いた後にカデンツを付けること。アルペッジョは長調・短調とも繰り返しをつけ、続けて弾くこと。テンポは、四分音符＝138以上）。
- (2) 以下の(a)、(b)のどちらかを選択。
 - (a) I. Moscheles : 《24の練習曲》 op. 70より1曲。
 - (b) C. Czerny : 《Schule des Virtuosen (60の練習曲)》 op. 365より1曲。

楽曲

以下の(1)及び(2)。

- (1) J. S. Bach : 《Das Wohltemperierte Klavier (平均律)》第1巻 BWV 846-869、第2巻 BWV 870-893 より1組のプレリュードとフーガ。
- (2) 7分程度の曲（抜粋可）。

例

- (a) W. A. Mozart : 《ピアノ・ソナタ》 KV 331、576
- (b) L. v. Beethoven : 《ピアノ・ソナタ》 op. 26、53、81a、90
- (c) C. M. v. Weber : 《ピアノ・ソナタ第1番 ハ長調》 op. 24
- (d) F. Chopin : 《Ballade 第1番》 op. 23、《Ballade 第2番》 op. 38、《Ballade 第3番》 op. 47、《Scherzo 第1番》 op. 20、《Scherzo 第2番》 op. 31、《Scherzo 第3番》 op. 39
- (e) R. Schumann : 《ピアノ・ソナタ第2番 ト短調》 op. 22、《Variationen über den Namen Abegg (アベック変奏曲)》 op. 1
- (f) J. Brahms : 《ピアノ・ソナタ第1番 ハ長調》 op. 1、《ピアノ・ソナタ第2番 嬰へ短調》 op. 2
- (g) C. Saint-Saëns : 《Allegro Appassionato》 op. 70
- (h) G. Fauré : 《Nocturne》 op. 33-2、33-3、37、《13曲の Barcarolle》より
- (i) C. Debussy : 《Estampes (版画)》
- (j) M. Ravel : 《ソナチネ》
- (k) S. Rachmaninoff : 《Morceaux de fantaisie (幻想小品集)》 op. 3より
- (l) 有馬礼子 : 《失われたものへの3章》より

グレード8

技術課題

F. Chopin、F. Liszt の練習曲集より任意の1曲。

楽曲

以下の(1)及び(2)。

- (1) J. S. Bach : 《Toccaten》 BWV 911-916 より1曲全曲。
- (2) 10分程度の曲（複数でもよい）。

例

- (a) J. S. Bach / F. Busoni 編曲 : 《Chaconne aus der Partita d-moll für Violine (シャコンヌ)》
- (b) W. A. Mozart : 《Fantasie ハ短調》 KV475、《ピアノ・ソナタ ハ短調》 KV457
- (c) L. v. Beethoven : 《ピアノ・ソナタ へ短調》 op. 57、《ピアノ・ソナタ ホ長調》 op. 109
- (d) F. Mendelssohn-Bartholdy : 《Variations sérieuses (厳格な変奏曲)》 op. 54
- (e) F. Liszt : 《Ballade 第2番》
- (f) F. Chopin : 《Ballade 第4番》 op. 52、《Scherzo 第4番》 op. 54
- (g) A. Skryabin : 《ピアノ・ソナタ第2番 嬰ト短調》 op. 19

- (h) C. Debussy : 《Image (映像)》第1集、第2集より
- (i) S. Prokofiev : 《ピアノ・ソナタ第1番》、《ピアノ・ソナタ第2番》

グレード9

技術課題・楽曲をあわせて30分程度のプログラムの演奏。

技術課題

以下の(1)、(2)のどちらかを選択。

- (1) F. Chopin : 《練習曲集》 op. 10、op. 25より2曲。
- (2) F. Liszt : 《Études d'exécution transcendante (超絶技巧練習曲) 》より1曲。

楽曲

以下の(1)及び(2)。

- (1) バロック又は古典派の作品より5分程度の曲（複数でも良い）。
- (2) 15分程度の曲（複数でもよい）。

例

ソナタ全楽章、組曲全曲、変奏曲全曲、又はそれに匹敵する規模の作品。

グレード10

技術課題・楽曲をあわせて広範囲な時代様式にわたる作品を含む60分程度のプログラムの演奏。

技術課題（繰り返しをしてもよい）

F. Chopin の2つの《練習曲集》op.10及びop.25（但し、op.10-9と op.25-2を除く）、又はF. Liszt、C. Debussy、S. Rachmaninoff、A. Scriabin の練習曲集より、異なる作曲家の作品を2曲以上。

楽曲

近年の諸国際コンクールの課題曲又はそれと同レベルの曲（但し、バロック又は古典派の作品を含めることが望ましい）。

例

- (a) L. v. Beethoven : 《ピアノ・ソナタ第30番 ホ長調》 op.109
- (b) L. v. Beethoven : 《ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調》 op.110
- (c) F. Chopin : 《ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調 (葬送)》 op.35
- (d) R. Schumann : 《Symphonische Etüden (交響的練習曲)》 op. 13
- (e) J. Brahms : 《Variationen und Fuge über ein Thema von Händel (ヘンデルの主題による変奏とフーガ)》 op. 24
- (f) H. Dutilleux : 《ピアノ・ソナタ》
- (g) 矢代秋雄 : 《ピアノ・ソナタ》

【副科ピアノ】

グレード1

任意の1曲

グレード2

楽曲

- (1) J.S. バッハの作品より任意の1曲
例 アンナ・マグダレーナの為のクラヴィーア小曲集
- (2) 任意の1曲
例 バルトーク ミクロコスモス3巻より

グレード3

技術課題

- (1) 音階：調号がシャープ、フラット2つまでの調を範囲とし、平行調の関係にある長調・短調（短調は和声的音階と旋律的短音階両方弾くこと）1組を試験時に指定。奏法は《ハノン》第39番に準ずる。長調は繰り返しなしでカデンツを付けること。短調は和声的短音階に続きカデンツなしですぐに旋律的短音階を弾いた後にカデンツを付けること。
- (2) 練習曲：任意の1曲
例 J. ブルクミュラー 25の練習曲

楽曲

3分程度の任意の1曲

例 L.v. ベートーヴェン バガテル

グレード4

技術課題

- (1) 音階：調号がシャープ、フラット3つまでの調を範囲とし、平行調の関係にある長調・短調1組を試験時に指定。奏法は《ハノン》第39番に準ずる。長調は繰り返しなしでカデンツを付けること。短調は和声的短音階に続きカデンツなしですぐに旋律的短音階を弾いた後にカデンツを付けること。
- (2) 練習曲：任意の1曲
例 C. ツェルニー 30番の練習曲。

楽曲

5分以内の任意の1曲

例 ソナチネ・アルバムより クーラウのソナチネ

グレード5

技術課題

- (1) 音階：全調の音階の中から、平行調の関係にある長調・短調1組を試験時に指定。奏法は《ハノン》第39番に準ずる。長調は繰り返しなしでカデンツを付けること。短調は和声的短音階に続きカデンツなしですぐに旋律的短音階を弾いた後にカデンツを付けること。
- (2) 練習曲：任意の1曲

楽曲

- (1) J.S. バッハ《インヴェンション BWV772-786》より1曲
- (2) 5分程度の任意の1曲
例 古典のソナタより1曲

エリザベト演奏グレード検定試験課題 弦楽器（ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ） 【最新版】

【留意事項】

1. 暗譜の有無は科目によって異なります。
暗譜を必要とする科目＝声楽、ピアノ、弦楽器、副科ピアノ
ただし声楽、弦楽器の当日指定の課題については、暗譜の必要はありません。
暗譜を必要としない科目＝オルガン、チェンバロ、管楽器、打楽器
ただしオルガンのピアノ課題は暗譜です。
2. 任意の1曲は、クラシック作品あるいはそれに準ずるものとします。
3. 伴奏については以下の通りです。
伴奏を必要とする科目＝声楽(全グレード)、管弦打楽器(グレード7以上)
伴奏を任意とする科目＝管弦打楽器(グレード1～6)
※伴奏者は受験者が用意すること。ただし、声楽の技術課題コンコーネ当日1曲指定の場合のみ、本学が伴奏者を用意します。
4. グレード6の受験には、グレード5(1つ下のグレード)の取得が必要です。グレード7以上についても同様です。
5. 申込方法は、エリザベト音楽大学発行の『受験案内』を参照ください。

ヴァイオリン

グレード1

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) シャープ3つ、フラット2つまでの任意の調の1オクターブの音階(1弓2音で)。
- (2) 以下の中から任意の1曲。
《篠崎バイオリン教本》第1巻
《新しいバイオリン教本》第1巻

楽曲

《篠崎バイオリン教本》第1巻より、以下の中から任意の1曲。

- スペイン民謡：《ちょうちょう》
ドイツ民謡：《むすんでひらいて》
オードウェイ (Ordway)：《旅愁》
篠崎 編：《キラキラ星変奏曲》

グレード2

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) 第1ポジションでの任意の調の2オクターブの音階(1弓4音で)。
- (2) 以下の(a)～(c)の中から1つを選択。
(a) 《篠崎バイオリン教本》第2巻より任意の1曲。
(b) H.E. カイザー H.E. Kayser：《36の練習曲》op.20より第12番までのの中から任意の1曲。
(c) 《新しいバイオリン教本》第2巻より任意の1曲。

楽曲

以下の(a)～(c)の中から1つを選択。

- (a) O. リーディング O. Rieding : 《ヴァイオリン協奏曲 ト長調》第1楽章又は第3楽章
- (b) F. ザイツ F. Seitz : 《ヴァイオリン協奏曲第2番 ト長調》op.13 第1楽章又は第3楽章
- (c) F. ザイツ F. Seitz : 《ヴァイオリン協奏曲第5番 ニ長調》op.22 第1楽章又は第3楽章

グレード3

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) ハイポジションを含む任意の調の2オクターブの音階（1弓4音で）。
参考例：《篠崎バイオリン教本》第3巻8～9ページ。
- (2) 以下の(a)～(c)の中から1つを選択。
 - (a) 《篠崎バイオリン教本》第3巻より任意の1曲。
 - (b) H.E. カイザー H.E. Kayser : 《36の練習曲》op.20より第13～24番の中から任意の1曲。
 - (c) 《新しいバイオリン教本》第3巻より任意の1曲。

楽曲

以下の(a)～(d)の中から1つを選択。

- (a) ヴィヴァルディ A. Vivaldi : 《ヴァイオリン協奏曲 イ短調》op.3-6 第1楽章又は第3楽章
- (b) C. ダンクラ C. Dancla : 《主題と変奏 Air Varié 第6番》op.89-1
- (c) J. フィオッコ J.Fiocco : 《アレグロ》
- (d) H. ビショップ H.Bishop : 《ホーム スイート ホーム変奏曲 Home Sweet Home Variations》

グレード4

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) ハイポジションを含む任意の調の2オクターブの音階（1弓8音で）。
参考例：《篠崎バイオリン教本》第4巻9ページ、新しいバイオリン教本第4巻24番。
- (2) 以下の(a)～(c)の中から1つを選択。
 - (a) 《篠崎バイオリン教本》第4巻より任意の1曲。
 - (b) H.E. カイザー H.E. Kayser : 《36の練習曲》op.20より第25～36番の中から任意の1曲。
 - (c) 《新しいバイオリン教本》第4巻より任意の1曲。

楽曲

以下の(a)～(c)の中から1つを選択。

- (a) H. エックレス H. Eccles : 《ヴァイオリン・ソナタ ト短調》全楽章
- (b) A. ヴィヴァルディ A. Vivaldi : 《ヴァイオリン・ソナタ イ長調》op.2-2第1及び第5楽章
- (c) J. アッコラーイ J. Accolay : 《ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調》

グレード5

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) フレッシュ : 《音階教本》より任意の長調の第5番（ハ長調のスラーで、J=120）。
- (2) R. クロイツェル R.Kreutzer : 《42の練習曲》より第23番までの中から任意の1曲。

楽曲

以下の(a)～(f)の中から1つを選択。

- (a) J. S. バッハ J. S. Bach : 《ヴァイオリン協奏曲第1番 イ短調》BWV1041 第1楽章

- (b) J. S. バッハ J. S. Bach : 《ヴァイオリン協奏曲第2番 ホ長調》 BWV1042 第1楽章
- (c) P. ローデ P. Rode : 《ヴァイオリン協奏曲第7番 イ短調》 op.9 第1楽章
- (d) P. ローデ P. Rode : 《ヴァイオリン協奏曲第8番 ホ短調》 op.13 第1楽章
- (e) G. ヴィオッティ G. Viotti : 《ヴァイオリン協奏曲23番 ト長調》 第1楽章

グレード6

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) フレッシュ : 《音階教本》より任意の短調の第5番 (ハ長調のスラーで、 $J=120$)。
- (2) R. Kreutzer : 《42の練習曲》より第24～42番の中から任意の1曲。

楽曲

以下の(a)～(d)の中から1つを選択。

- (a) W. A. Mozart : 《ヴァイオリン協奏曲第3番 ト長調》 KV 216 第1楽章
- (b) G. Viotti : 《ヴァイオリン協奏曲第22番 イ短調》 第1楽章
- (c) C. Beriot : 《Scène de ballet》 op. 100
- (d) H. Vieuxtemps : 《Ballade et polonaise》 op. 38

グレード7

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) フレッシュ : 《音階教本》より任意の調の第6、7、8番の最初の4小節 ($J=40$)。
- (2) P. Rode : 《24 Caprices》の中から任意の1曲。

楽曲

以下の(a)～(f)の中から1つを選択。

- (a) W. A. Mozart : 《ヴァイオリン協奏曲第4番 ニ長調》 KV 218 第1楽章
- (b) W. A. Mozart : 《ヴァイオリン協奏曲第5番 イ長調》 KV 219 第1楽章
- (c) M. Bruch : 《ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調》 op. 26 第1楽章又は第3楽章
- (d) H. Vieuxtemps : 《ヴァイオリン協奏曲第4番 ニ短調》 op. 31 第1楽章又は第4楽章
- (e) H. Vieuxtemps : 《ヴァイオリン協奏曲第5番 イ短調》 op. 37 カデンツの前まで
- (f) H. Wieniawski : 《ヴァイオリン協奏曲第2番 ニ短調》 op. 22 第1楽章又は第3楽章

グレード8

技術課題

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

- (a) J. Dont : 《24 Etüden und Capricen》 op.35より任意の1曲。
- (b) N. Paganini : 《24 Capricci》 op.1より任意の1曲。

楽曲

以下の(a)～(f)の中から1つを選択。

- (a) F. Mendelssohn-Bartholdy : 《ヴァイオリン協奏曲 ホ短調》 op. 64 第1楽章又は第3楽章
- (b) E. Lalo : 《Symphonie espagnole》 op. 21 第1楽章又は第5楽章
- (c) C. Saint-Saëns : 《ヴァイオリン協奏曲第3番 ロ短調》 op. 61 第1楽章又は第3楽章
- (d) C. Saint-Saëns : 《Introduction et rondo capriccioso》 op. 28
- (e) A. Dvořák : 《ヴァイオリン協奏曲 イ短調》 op. 53 第1楽章
- (f) J. S. Bach : 《無伴奏ソナタ》の3つのフーガから任意の1曲。

グレード9

技術課題

N. Paganini : 《24Capricci》 op. 1 の中から任意の1曲。

楽曲

以下の(a)~(f)の中から1つを選択。

- (a) N. Paganini : 《ヴァイオリン協奏曲第1番 ニ長調》 op. 6 第1楽章
- (b) P. I. Tchaikovsky : 《ヴァイオリン協奏曲 ニ長調》 op. 35 第1楽章又は第3楽章
- (c) A. Glazunov : 《ヴァイオリン協奏曲 イ短調》 op. 82 カデンツの後まで
- (d) J. Sibelius : 《ヴァイオリン協奏曲 ニ短調》 op. 47 第1楽章又は第3楽章
- (e) J. Brahms : 《ヴァイオリン協奏曲 ニ長調》 op. 77 第1楽章
- (f) J. S. Bach : 《無伴奏ソナタとパルティータ》 BWV1001~1006より1つのソナタ又は1つの組曲。

グレード10

技術課題・楽曲をあわせて広範囲な時代様式にわたる作品を含む60分程度のプログラムの演奏。

技術課題

N. Paganini : 《24 Capricci》 op. 1 より任意の1曲。

楽曲

以下の(1)及び(2)。

- (1) 次の4曲から任意の1曲
 - J. S. Bach : 《無伴奏ソナタ第1番 ト短調》よりフーガ
 - 《無伴奏ソナタ第2番 イ短調》よりフーガ
 - 《無伴奏ソナタ第3番 ハ短調》よりフーガ
 - 《無伴奏パルティータ第2番 ニ短調》よりシャコンヌ
- (2) 次の3曲より任意の一曲（全楽章）
 - J. Brahms : 《ヴァイオリン協奏曲 ニ長調》 op. 77
 - J. Sibelius : 《ヴァイオリン協奏曲 ニ短調》 op. 47
 - P. I. Tchaikovsky : 《ヴァイオリン協奏曲 ニ長調》 op. 35

ヴィオラ

グレード1

技術課題

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

- (a) A. カース A. Carse : 《ヴィオラスクール Viola School》第1巻より任意の1曲。
- (b) E. クロイツ E. Kreuz : 《ヴィオラのための練習曲集 Select Studies for Viola》第1巻より第17番までの中から任意の1曲。

楽曲

任意の1曲。

グレード2

技術課題

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

- (a) A. カース A. Carse : 《ヴィオラスクール Viola School》第2巻より任意の1曲。
- (b) E. クロイツ E. Kreuz : 《ヴィオラのための練習曲集 Select Studies for Viola》第1巻より第18~30番の中から任意の1曲。

楽曲

任意の1曲。

グレード3

技術課題

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

- (a) A. カース A. Carse : 《ヴィオラスクール Viola School》 第3巻より任意の1曲。
- (b) E. クロイツ E. Kreuz : 《ヴィオラのための練習曲集 Select Studies for Viola》 第2巻より任意の1曲。

楽曲

任意の1曲。

グレード4

技術課題

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

- (a) A. カース A. Carse : 《ヴィオラスクール Viola School》 第4巻より任意の1曲。
- (b) E. クロイツ E. Kreuz : 《ヴィオラのための練習曲集 Select Studies for Viola》 第3巻より任意の1曲。

楽曲

任意の1曲。

グレード5

技術課題

以下の(a)~(c)の中から1つを選択。

- (a) A. カース A. Carse : 《ヴィオラスクール Viola School》 第5巻より任意の1曲。
- (b) E. クロイツ E. Kreuz : 《ヴィオラのための練習曲集 Select Studies for Viola》 第4巻より任意の1曲。
- (c) H. カイザー H. Kayser : 《36の練習曲》(ヴィオラ版) より任意の1曲

楽曲

G.P. テレマン G.P. Telemann : 《ヴィオラ協奏曲 ト長調》第1楽章

グレード6

技術課題

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

- (a) H. Kayser : 《36の練習曲》(ヴィオラ版) より任意の1曲。
- (b) J. Dont : 《24 の練習曲》 op. 37 (ヴィオラ版) より任意の1曲。

楽曲

以下の(a)~(c)の中から1つを選択。

- (a) J. S. Bach : 《無伴奏組曲》(ヴィオラ版) BWV1007よりプレリュードと任意の舞曲。
- (b) J. S. Bach : 《無伴奏組曲》(ヴィオラ版) BWV1008よりプレリュードと任意の舞曲。
- (c) J. S. Bach : 《無伴奏組曲》(ヴィオラ版) BWV1009よりプレリュードと任意の舞曲。

グレード7

技術課題

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

- (a) B. Campagnoli : 《41 Caprices》 op. 22より任意の1曲。
- (b) R. Kreutzer : 《42の練習曲》(ヴィオラ版) より第10~23番の中から任意の1曲。

楽曲

以下の(a)~(c)の中から1曲を選択。

- (a) J. C. Bach : 《ヴィオラ協奏曲 ハ短調》第1楽章、カデンツあり

- (b) A. Hoffmeister : 《ヴィオラ協奏曲 ニ長調》第1楽章、カデンツあり
- (c) C. Stamitz : 《ヴィオラ協奏曲 ニ長調》op. 1 第1楽章、カデンツあり

グレード8

技術課題

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

- (a) B. Campagnoli : 《41 Caprices》op. 22より任意の1曲。
- (b) R. Kreutzer : 《42の練習曲》(ヴィオラ版)より第24~42番の中から任意の1曲。

楽曲

以下の(a)~(d)の中から1つを選択。

- (a) J. Brahms : 《ソナタ へ短調》op. 120-1 第1、3、4楽章
- (b) J. Brahms : 《ソナタ 変ホ長調》op. 120-2 第1及び2楽章
- (c) M. Reger : 《無伴奏組曲》op. 131d
- (d) G. Enesco : 《演奏会用小品》

グレード9

技術課題

以下の(a)~(c)の中から1つを選択。

- (a) J. Palaschko : 《20の練習曲》op. 36の中から任意の1曲。
- (b) R. Kreutzer : 《42の練習曲》(ヴィオラ版)より第24~42番の中から任意の1曲。
- (c) P. Rode : 《24 Caprices》より任意の1曲。

楽曲

以下の(a)~(c)の中から1曲を選択。

- (a) N. Bartók : 《ヴィオラ協奏曲》
- (b) W. Walton : 《ヴィオラ協奏曲》
- (c) P. Hindemith の諸作品

グレード10

技術課題・楽曲をあわせて広範囲な時代様式にわたる作品を含む60分程度のプログラムの演奏。

技術課題

技術課題は設けない。

楽曲

リサイタル・プログラムの演奏

チェロ

グレード1

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) ハ長調の音階 (2オクターヴ)、但し1弓2音で弾くこと (指使いは自由)。
- (2) 以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

- (a) J. ウェルナー J. Werner : 《チェロ教則本》より練習曲第1番 (Carl Fischer 版 14 ページ)。
- (b) A. シュレーダー A. Schroeder : 《基礎練習曲集》第1巻より第3、5、7番の中の任意の1曲。

楽曲

H. ベイリー H. Bayly : 《ロング・ロングアゴー (変奏曲付) Long, Long Ago》[鈴木慎一 : 《チェロ指導曲集》第2巻、所収]

グレード2

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) ニ長調の音階（2オクターヴ）、但し1弓2音で弾くこと（指使いは自由）。
- (2) 以下の(a)、(b)のどちらかを選択。
 - (a) J. ウェルナー J. Werner : 《チェロ教則本》より練習曲第3～6番（Carl Fischer 版 20、22、26、27 ページ）の中から任意の1曲。
 - (b) A. シュレーダー A. Schroeder : 《基礎練習曲集》第1巻より第26～28番の中の任意の1曲。

楽曲

J. S. バッハ J. S. Bach : 《マーチ ト長調 March》 [鈴木慎一 : 《チェロ指導曲集》第2巻、所収]

グレード3

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) ト長調の音階（2オクターヴ）、但し1弓4音で弾くこと（指使いは自由）。
- (3) 以下の(a)、(b)のどちらかを選択。
 - (a) J. ウェルナー J. Werner : 《チェロ教則本》より練習曲第1、第4ポジションの練習曲（Carl Fischer 版 36 ページ）。
 - (b) J. J. F. ドッツァー J. J. F. Dotzauer : 《練習曲集 113Studies》より第8番。

楽曲

R. シューマン R. Schumann : 《二人の擲弾兵 Die beiden Grenadiere》 [鈴木慎一 : 《チェロ指導曲集》第2巻、所収]

グレード4

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) ヘ長調の音階（2オクターヴ）、但し1弓4音で弾くこと（指使いは自由）。
- (2) 以下の(a)、(b)のどちらかを選択。
 - (a) J. ウェルナー J. Werner : 《チェロ教則本》より練習曲第1、第3、第4ポジションの練習曲（Carl Fischer 版 40 ページ）。
 - (b) J. J. F. ドッツァー J. J. F. Dotzauer : 《練習曲集 113Studies》より第11番。

楽曲

成田為三 : 《浜辺の歌》 [鷹栖光昭 / 升田俊樹著 : 《やさしいチェロ入門》第2巻（ドレミ楽譜出版社）所収]

グレード5

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) 変ホ長調又はヘ短調（旋律的音階）の音階（2オクターヴ）、但し1弓4音で弾くこと。試験時にどちらかの調を指定（指使いは自由）。
- (2) 以下の中から任意の1曲。

J. J. F. ドッツァー J. J. F. Dotzauer : 《練習曲集 113Studies》より第16、19、22、27番。

楽曲

A. ヴィヴァルディ A. Vivaldi : 《チェロ・ソナタ第3番 イ短調》 RV43 第2楽章

グレード6

技術課題

以下の(1)及び(2)。

- (1) ニ長調の音階（3オクターヴ）、但し1弓4音で弾くこと。（指使いは自由）。

(2) 以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

(a) A. Schroeder : 《基礎練習曲集》第1巻より第39番又は42番。

(b) J. J. F. Dotzauer : 《練習曲集 113Studies》より第32番又は33番。

楽曲

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

(a) G. Goltermann : 《チェロ協奏曲第5番 ニ短調》op. 76 第1楽章

(b) J. Klengel : 《コンチェルティーノ第1番 ハ長調》op. 7 第1楽章

グレード7

技術課題

以下の(1)及び(2)。

(1) ハ長調の音階(4オクターヴ)、但し1弓8音で弾くこと。(指使いは J. Loeb : 《Gammes et arpèges》を参照)。

(2) 以下の中から任意の1曲。

A. Schroeder : 《基礎練習曲集》第1巻より第43番以降の曲。

楽曲

以下の(a)、(b)のどちらかを選択。

(a) G. Goltermann : 《チェロ協奏曲第3番 ロ短調》op. 51 第1楽章

(b) L. Boëllmann : 《交響的変奏曲 ニ短調》op. 23

グレード8

技術課題

以下の(1)及び(2)。

(1) ニ長調の音階を分散3度(4オクターヴ)、但し1弓9音で弾くこと。(指使いは J. Loeb : 《Gammes et arpèges》を参照)。

(2) A. Schroeder : 《基礎練習曲集》第2巻より任意の1曲。

楽曲

以下の(a)、(b)のどちらかを選択し、その第1と2楽章又は第2と3楽章。

(a) J. Haydn : 《チェロ協奏曲 ハ長調》Hob. VIIb : 1

(b) C. Saint-Saëns : 《チェロ協奏曲第1番 イ短調》op. 33

グレード9

技術課題

以下の(1)及び(2)。

(1) 変ホ長調の音階を分散3度(4オクターヴ)、但し1弓9音で弾くこと。(指使いは J. Loeb : 《Gammes et arpèges》を参照)。

(2) D. Popper : 《40の練習曲》op. 73より第20番。

楽曲

以下の(a)~(c)の中から1曲を選択。

(a) J. Haydn : 《チェロ協奏曲 ニ長調》Hob. VIIb : 2

(b) A. Dvořák : 《チェロ協奏曲 ロ短調》op. 104 第1と2楽章又は第2と3楽章。

(c) R. Schumann : 《チェロ協奏曲 イ短調》op. 129 第1と2楽章又は第2と3楽章。

グレード10

技術課題・楽曲をあわせて広範囲な時代様式にわたる作品を含む60分程度のプログラムの演奏(但しソナタは暗譜でなくてもよい)。

技術課題

技術課題は設けない。

楽曲

J. S. Bach : 《無伴奏チェロ組曲》 BWV1007～1012より任意の1曲。